

八ヶ上遺跡 第23地点

| | |
|------|---|
| 遺跡名 | 八ヶ上遺跡 |
| よみがな | はけうえいせき |
| 調査地点 | 第23地点 |
| 主な時代 | 縄文時代中期（約4500年前） |
| 調査地 | 富士見市関沢2丁目2808、2778-2 |
| 調査面積 | 約380㎡ |
| 調査期間 | 令和3年3月3日～4月8日 |
| 調査内容 | <p>【確認された主な遺構】 縄文時代の竪穴住居跡4軒、集石3基、埋甕1基、伏甕1基</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文土器、石器</p> <p>【概要】</p> <p>八ヶ上遺跡は、富士見江川とその支流の合流地点近くの台地上に位置し、東武東上線を跨いで関沢1丁目～2丁目を中心に広がっています。現在までの調査で、縄文時代草創期の遺物の集中した出土や、早期の炉穴、前期～中期の竪穴住居跡が確認されています。</p> <p>今回の調査では縄文時代前期の竪穴住居跡1軒、中期の竪穴住居跡3軒、埋甕1基、伏甕1基などが確認されました。中期の住居跡のうち1軒からは、掘りくぼめた穴の周りに石を丸く並べた「石囲い炉」が確認されました。過去の調査で、本調査地点の南西に隣接する地点や東に隣接する地点からも縄文時代中期の住居跡が複数見つかっており、集落跡の広がりが伺えます。</p> |



竪穴住居跡や土坑などが集中する様子



石囲い炉（中央上）と埋甕（中央下）をもつ住居跡



縄文時代中期の住居跡の石囲い炉



上下を逆さにして埋設された土器（伏甕）